Oracle WebCenter Portal：Content Server間でのカスタム・ポータル・コンテンツの移動

Oracle WebCenter Portalアプリケーションは、アプリケーションのドキュメント、イメージ、およびその他のファイルが格納されるOracle WebCenter Contentと緊密に統合されています。このコンテンツは、コンテンツ統合のタスク・フローを使ってアプリケーションのページに表示されます。

このチュートリアルでは、アプリケーションのコンテンツをOracle WebCenter Content Serverからエクスポートして、アプリケーションに必要な情報を保存する別のOracle WebCenter Content Serverにインポートする方法について説明します。

ここでは、アーカイブ・プロセスをすべて説明することはしません。簡単で一般的な例のみをご紹介します。アーカイブについて詳しくは、ドキュメント『*Oracle® WebCenter Content Content Serverシステム管理者ガイド11g リリース1*』の*第8章システム移行およびアーカイブの管理*を参照してください。

このドキュメントでは、Oracle Webcenter Portalのカスタム・アプリケーション用の推奨手順について説明します。Oracle WebCenter Portal: Spacesの場合は、ドキュメント『*Oracle® Fusion Middleware Oracle WebCenter Portal管理者ガイド11g リリース 1*』の*第39.1.3.9章Oracle Content Serverデータのエクスポート*に記載されている別の手順を推奨します。

前提条件

このチュートリアルでは、2つのOracle WebCenter Content Serverを2台の別々のホストにインストールしていることを前提とします。この2台のサーバーの構成は同じにします。コンテンツ・サーバーのインストールと構成について詳しくは、次のオラクルのトレーニング・モジュールを参照してください。『*Oracle WebCenter PortalのSpaces向けOracle Enterprise Content Management Suiteのインストールと構成*』。FolderStructureArchiveコンポーネントがインストール済みで有効であることが重要です。

ソース・サーバーにユーザー属性、コンテンツ・タイプ、セキュリティ・グループなどを作成した場合は、同じものをターゲット・サーバーにも作成するか、構成移行ユーティリティを使用する必要があります。

両方のサーバーが同じユーザー・リポジトリ（通常は外部のLDAPサーバー）に接続されていることを前提とします。そうでない場合は、同じユーザー・セットを両方のサーバーに作成する必要があります。

概要

通常、Oracle WebCenter Content Serverには、WebCenter Portalアプリケーションが使用するコンテンツがすべて保存されます。Content Serverには、これらのドキュメントとその属性が保存されます。属性はシステム生成かカスタムです。ドキュメントにはそれぞれ、一意の識別子もあります。

コンテンツがサーバーのファイル・システムに保存される従来のアプリケーションでは通常、コンテンツを階層フォルダに配置します。WebCenter Content Serverを使用する場合、このようなフォルダは必ずしも必要ではありません。ドキュメントの一意の識別子か、属性値に基づく問合せを使用して、ドキュメントを検索したり、これにアクセスしたりできるためです。ただしWebCenter Portalのアプリケーション開発者は、ドキュメントをフォルダ階層に配置するのが一般的です。

WebCenter Portal アプリケーション・ページでコンテンツ項目へのアクセスやレンダリングが必要な場合、開発者は ADF Faces タグを使用するか、ビルトインのタスク・フローを使用するという方法があります。方法によっては、フォルダ階層のドキュメントの場所に依存したり、一意の ID を使用したり、動的問合せの書込みが必要であったりします。

たとえばWebCenter Contentに保存されているイメージを表示する場合、次のオプションがあります。

- WebCenter Contentに保存されているイメージをADFイメージとして表示できます。次のコード部分が表示されます。太字のテキストに注意してください。source属性は、ファイルのパスを示します。

```
<af:inlineFrame id="inlineFrame1"
source="/content/conn/UCM/path/Contribution%20Folders/ElPiju/Materials/
Adobe/pictures/adobe.jpg"/>
```

  WebCenter Portal 11.1.1.6.0リリースではこのコードが機能しますが、JDeveloperでは、Content Serverが割り当てる一意のドキュメント名を使用する別のスタイルのsource属性が作成されます。

```
<af:image id="image1"
source="#{documentsService.latestReleasedVersionURL['UUCM#dDocName:DADV
MC0302USOR002205']}"/>
```

- コンテンツ・プレゼンタのタスク・フローのインスタンスにイメージを表示できます。次のソース・コード部分が表示されます。

```
<af:region value="#{bindings.doclibcontentpresenter1.regionModel}"
           id="r2"/>
```

  これはページ定義ファイルの部分です。datasource属性は、内部の一意のドキュメント名を示します。

```
<taskFlow id="doclibcontentpresenter1"
taskFlowId="/oracle/webcenter/doclib/view/jsf/taskflows/presenter/conte
ntPresenter.xml#doclib-content-presenter"
          activation="deferred"
          xmlns="http://xmlns.oracle.com/adf/controller/binding">
  <parameters>
    <parameter id="taskFlowInstId"
               value="${'c05de200-e660-43dc-911f-b4c613d6b3ba'}"/>
    <parameter id="datasourceType" value="${'dsTypeSingleNode'}"/>
    <parameter id="datasource"
               value="${'UCM#dDocName:DADVMC0302USOR002205'}"/>
    <parameter id="templateCategory" value="${''}"/>
    <parameter id="templateView" value="${''}"/>
    <parameter id="maxResults" value="${''}"/>
  </parameters>
</taskFlow>
```

- 他のタスク・フロー（ドキュメント・マネージャのタスク・フローなど）では、パスを使用します。

```
<af:region value="#{bindings.doclibdocumentlibrary1.regionModel}"
           id="r3"/>
```

ページ定義ファイルも使用します。

```
<taskFlow id="doclibdocumentlibrary1"
taskFlowId="/oracle/webcenter/doclib/view/jsf/taskflows/mainView.xml#do
clib-document-library"
          activation="deferred"
          xmlns="http://xmlns.oracle.com/adf/controller/binding">
  <parameters>
    <parameter id="connectionName" value="${'UCM'}"/>
    <parameter id="startFolderPath"
       value="${'/Contribution Folders/ElPiju/Materials/Adobe'}"/>
    <parameter id="resourceId" value="${''}"/>
    <parameter id="readOnly" value="${false}"/>
    <parameter id="featuresOff" value="${''}"/>
    <parameter id="layout" value="${'explorer'}"/>
  </parameters>
</taskFlow>
```

- 最後に、コンテンツ・プレゼンタのタスク・フローと問合せを一緒に使用できます。たとえば、次のようになります。

```
<af:region value="#{bindings.doclibdocumentlibrary1.regionModel}"
           id="r3"/>
```

```
<taskFlow id="doclibcontentpresenter1"
taskFlowId="/oracle/webcenter/doclib/view/jsf/taskflows/presenter/conte
ntPresenter.xml#doclib-content-presenter"
          activation="deferred"
          xmlns="http://xmlns.oracle.com/adf/controller/binding">
  <parameters>
    <parameter id="taskFlowInstId"
               value="${'c05de200-e660-43dc-911f-b4c613d6b3ba'}"/>
    <parameter id="datasourceType" value="${'dsTypeQueryExpression'}"/>
    <parameter id="datasource"
               value="${'select * from cmis:document where cmis:name
    like ¥'adobe%.jpg¥''}"/>
    <parameter id="templateCategory" value="${''}"/>
    <parameter id="templateView" value="${''}"/>
    <parameter id="maxResults" value="${''}"/>
  </parameters>
</taskFlow>
```

したがって、すべてのエクスポートおよびインポートのプロセスで、フォルダ階層だけでなく、すべてのドキュメントとフォルダの属性（その一意のドキュメントIDやドキュメント名を含む）を維持する必要があります。

コンテンツのエクスポート

必要なコンテンツやフォルダをアーカイブするには、ArchiverコンポーネントとFolder Structure Archiverコンポーネントを組み合わせて使用します。

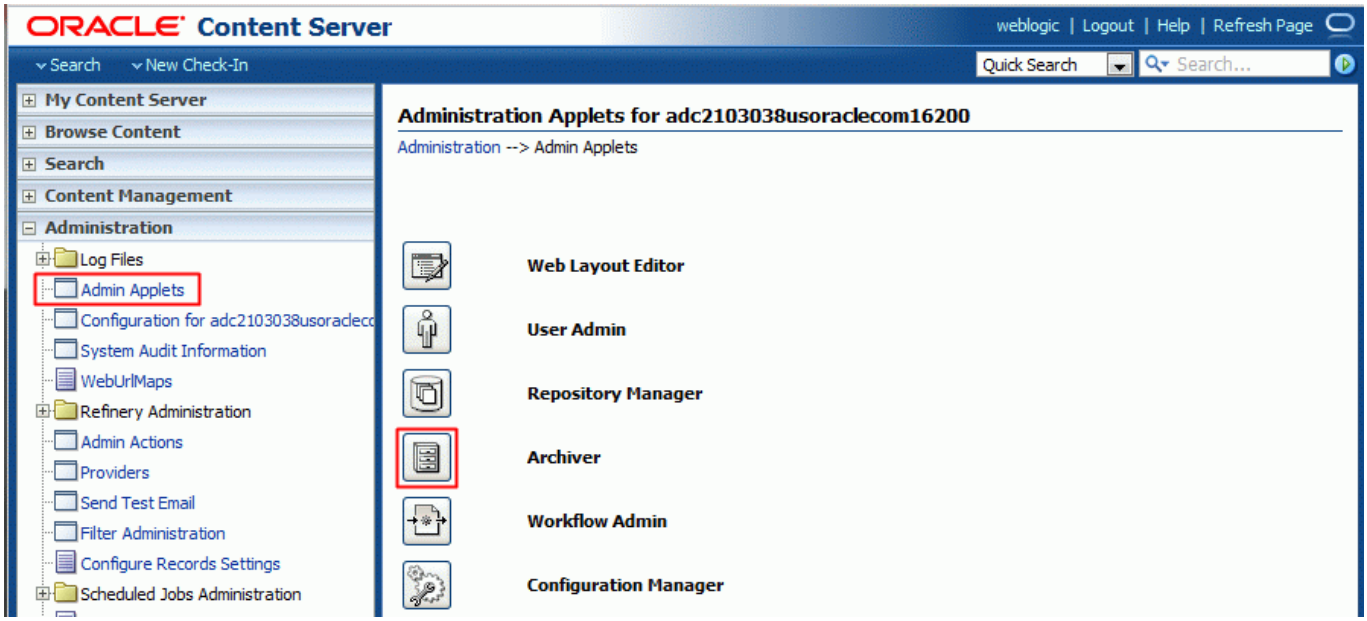
1. 新規アーカイブを作成します。

   a. Webブラウザを使用して、WebCenter Content ServerのWebユーザー・インタフェースにアクセスします。URLは構成によって異なります。デフォルトのURLは次のとおりです。

   ```
   http://<server>:16200/cs
   ```

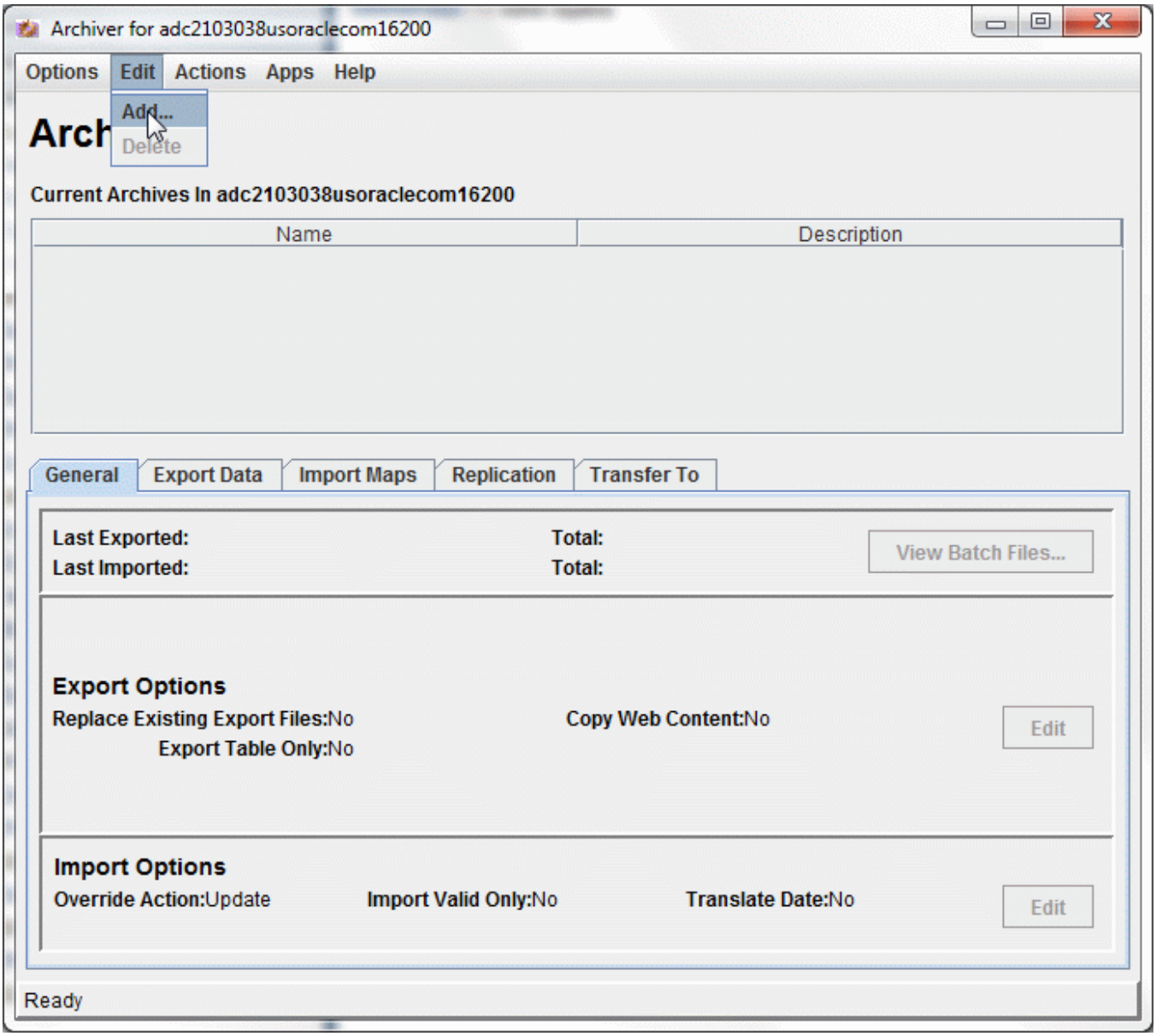
   b. WebCenter Content Serverに管理者権限でログインします。たとえば、ユーザーとして`weblogic`を使用します。

   c. **管理ノード**を開き、Admin Appletsページを開きます。アプレットから「Archiver」を選択します。



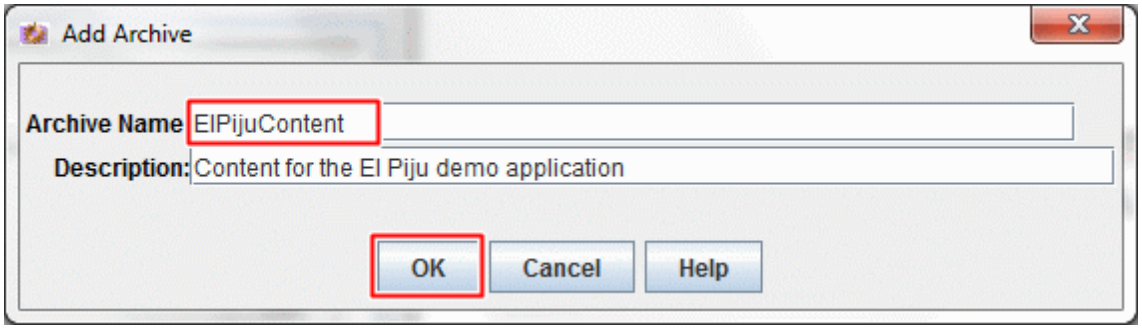
ar_01.gif

   d. Archiverアプレット・ウィンドウで、Editメニューから「Add」を選択します。



ar_02.gif

e. 新規アーカイブの名前を定義します。名前に空白や特殊文字を使用しないでください。大文字と小文字は組み合わせて使用できますが、そうするとアーカイブのディレクトリ名はすべて小文字になります。アーカイブに説明を追加できます。「OK」をクリックします。



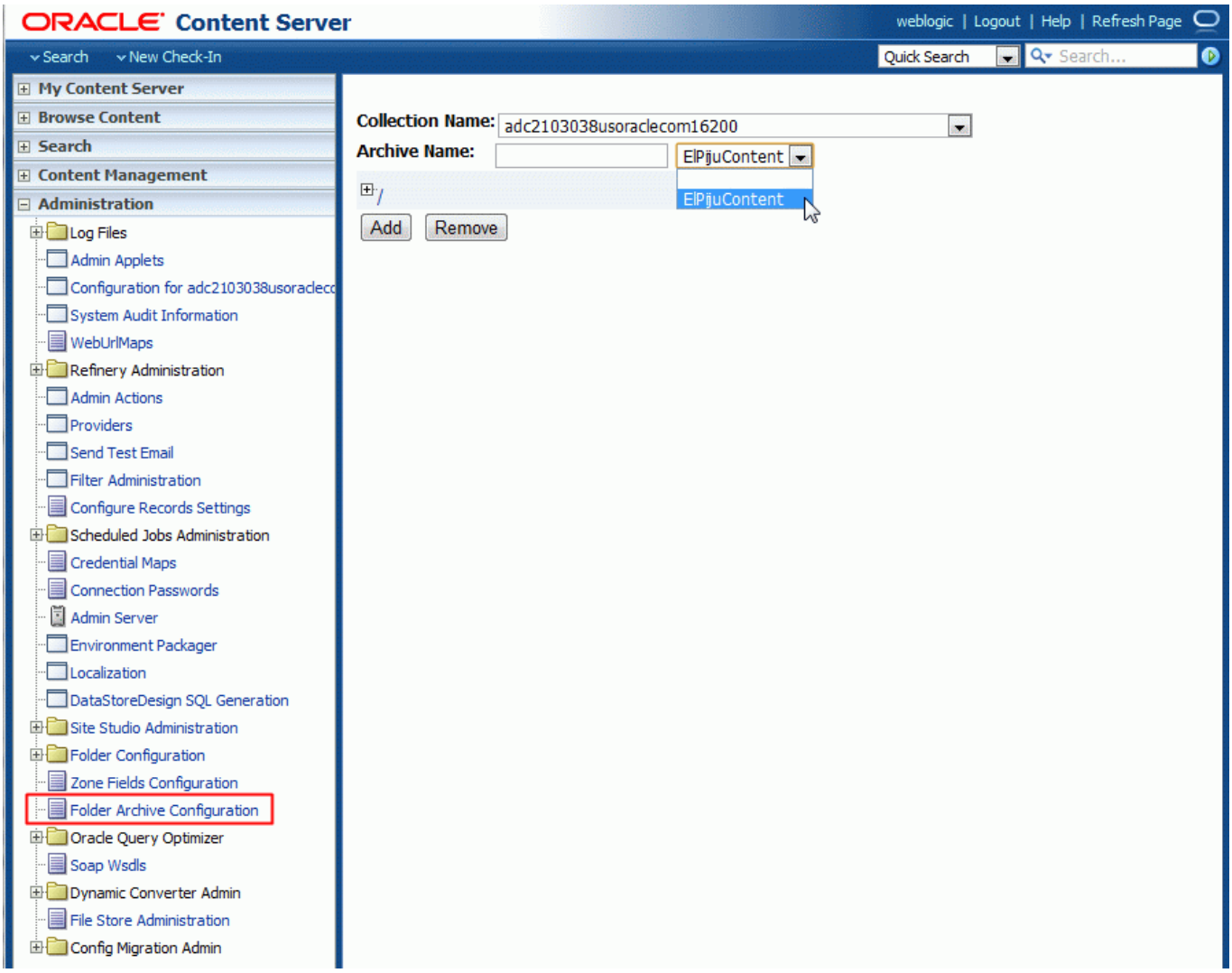
ar_03.gif

2. フォルダを定義します。

ドキュメントのエクスポート元からアーカイブの定義にフォルダを追加する必要があります。

a. 管理コンソールのArchive Folder Configurationページを開きます。新しく作成したアーカイブ名を選択します。

注：Archiver Appletウィンドウを閉じていなかった場合、Archive Folder Configurationページを選択すればこのウィンドウは自動的に閉じられます。



ar_07.gif

b. エクスポートするフォルダを選択します。

フォルダ構造でルートやその他のノードを開くことができます。エクスポート・アーカイブに含める1つまたは複数のフォルダを選択します。フォルダを選択するとデフォルトですべてのサブフォルダが選択されますが、フォルダ・ノードを開いて、エクスポートで不要なサブフォルダを選択解除できます。「Update」をクリックして、アーカイブの選択内容を記録します。

注：`Contribution Folders`の1つのルート・フォルダにアプリケーションのコンテンツをすべて保存するのが一般的です。たとえば、El Pijuというデモ・アプリケーションには次のような独自のルート・フォルダがあります。`/Contribution Folders/ElPiju`。このルート・フォルダの下にすべてのコンテンツをエクスポートします。

ar_08.gif

c. アーカイブが更新されたことを示す確認メッセージが表示されます。ノードを開いて選択したフォルダを確認または変更できます。

ar_09.gif

3. フォルダにないコンテンツをアーカイブから削除します。

Folder Structure Archiverには、デフォルトで次の内容が含まれます。

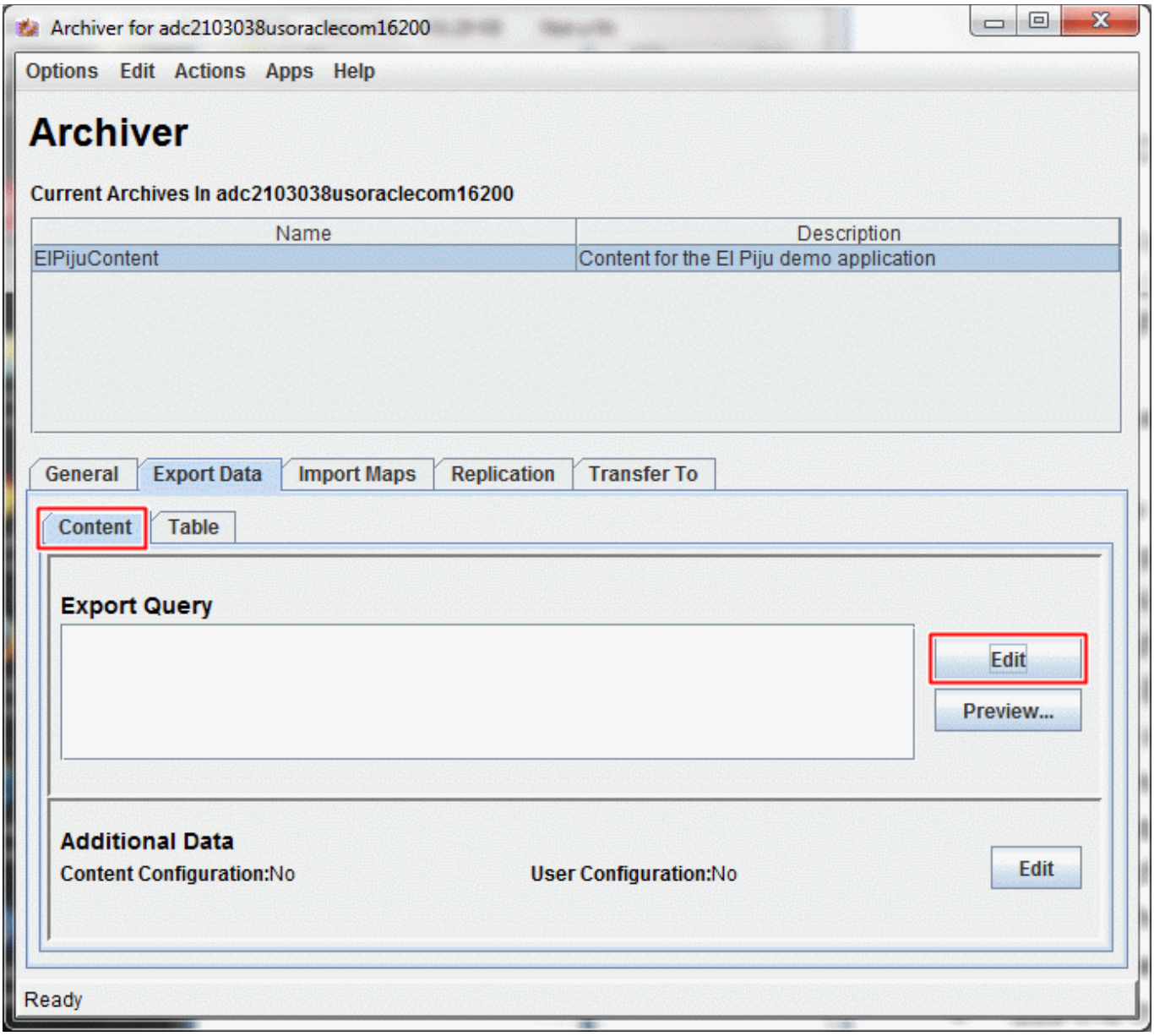
- 選択したフォルダ構造
- 選択したフォルダ構造内のすべてのコンテンツ項目
- どのフォルダにも属さないコンテンツ項目

注：デフォルトの動作は、構成変数`ArchiveFolderStructureOnly`および`AllowArchiveNoneFolderItem`を構成して制御できます。

WebCenter Portalアプリケーションでは通常、そのコンテンツがフォルダに保存されます。デフォルト設定を変更しないことにしたので、フォルダに保存されていないコンテンツをアーカイブから除外する必要があります。

a. 手順1/cと同様にArchiverアプレットを開きます。

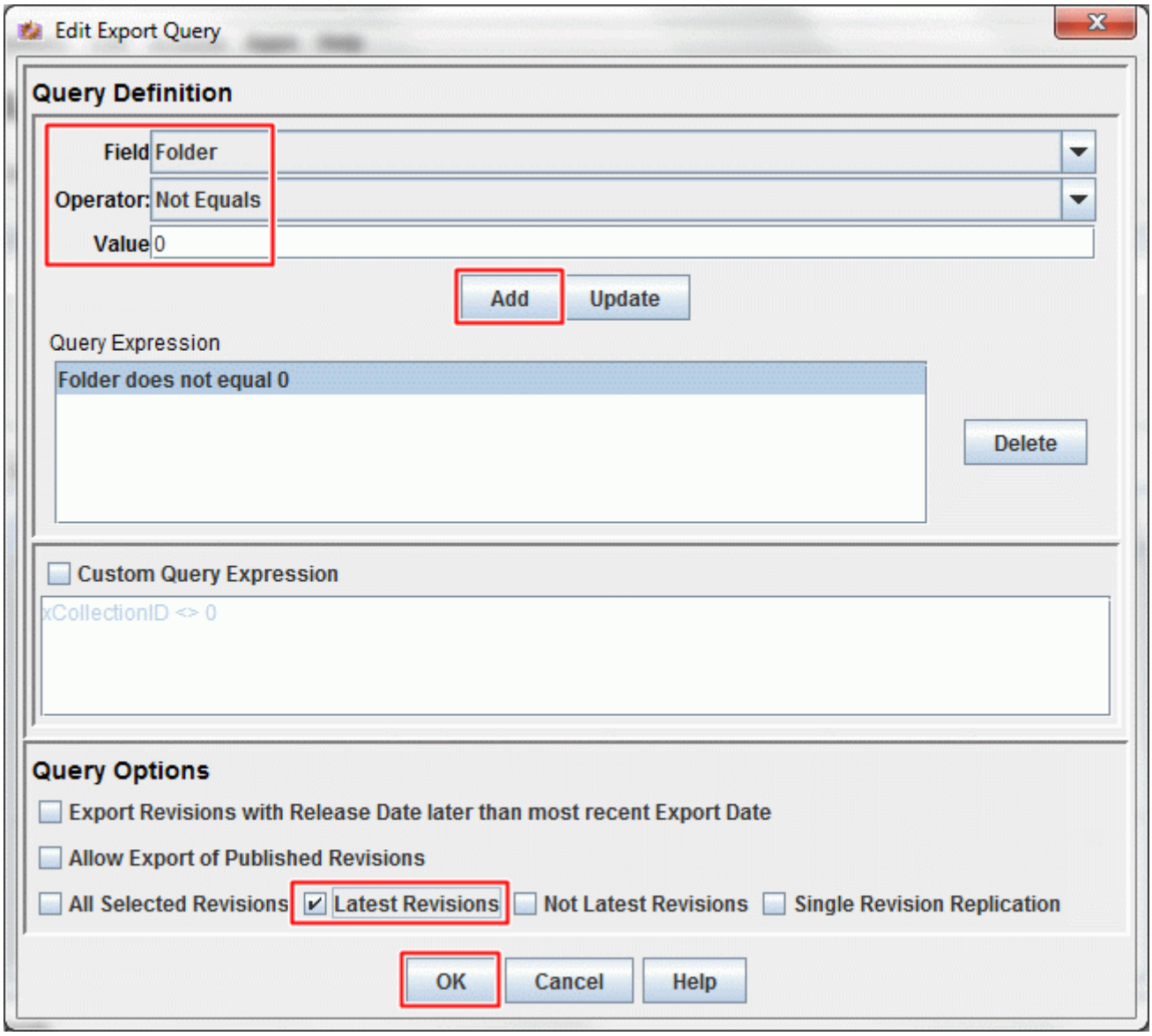
b. アーカイブを選択します。Export Dataタブで「Content」タブを選択し、「Edit」をクリックしてExport Queryを定義します。



ar_04.gif

c. Query DefinitionウィンドウのFieldで「Folder」、Operatorで「Not Equals」を選択し、Valueを0に設定して「Add」をクリックします。注：ドキュメントがフォルダに属していない場合、Folder属性の値は0（ゼロ）になります。

新規問合せは、Query Expressionフィールドには言葉（Folder does not equal 0）、Custom Query Expressionフィールドには式（`xCollectionID <> 0`）として表示されます。



ar_05.gif

ウィンドウの下部で、エクスポートするドキュメントのリビジョンを選択できます。ここでは、「Latest Revisions」を選択しました。

この式では、フォルダに保存されているすべてのドキュメントが選択されます。この時点では、コンテンツのエクスポート元の実際のフォルダを指定することはできません。これは後でアーカイブ定義に追加されます。

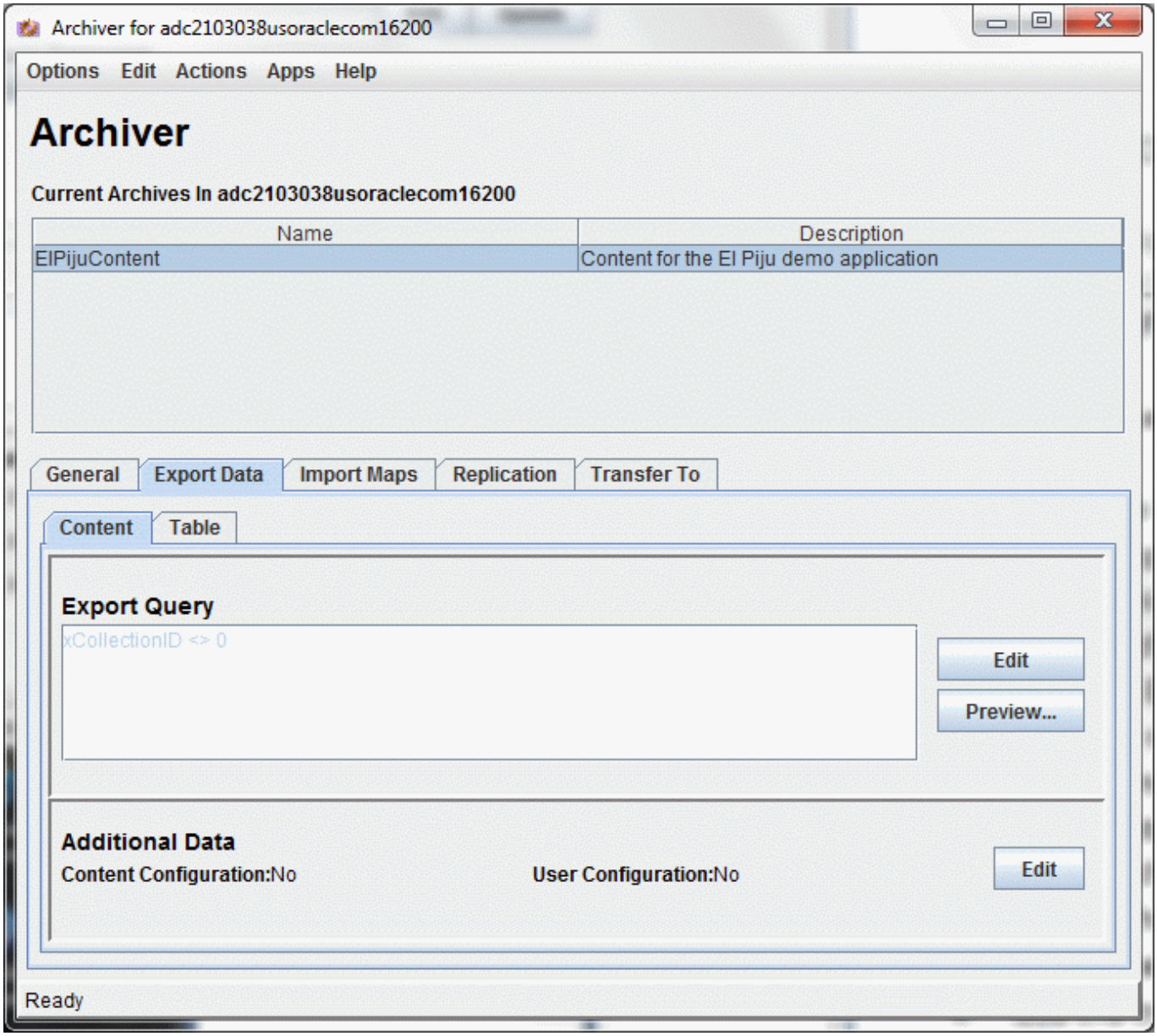
アプリケーションがフォルダに保存されていないコンテンツも使用している場合は、別のアーカイブを作成してこれらをエクスポートすることを推奨します。

ドキュメントをさらにフィルタする場合は、問合せに他の式を追加できます。

問合せが終了したら「OK」をクリックします。

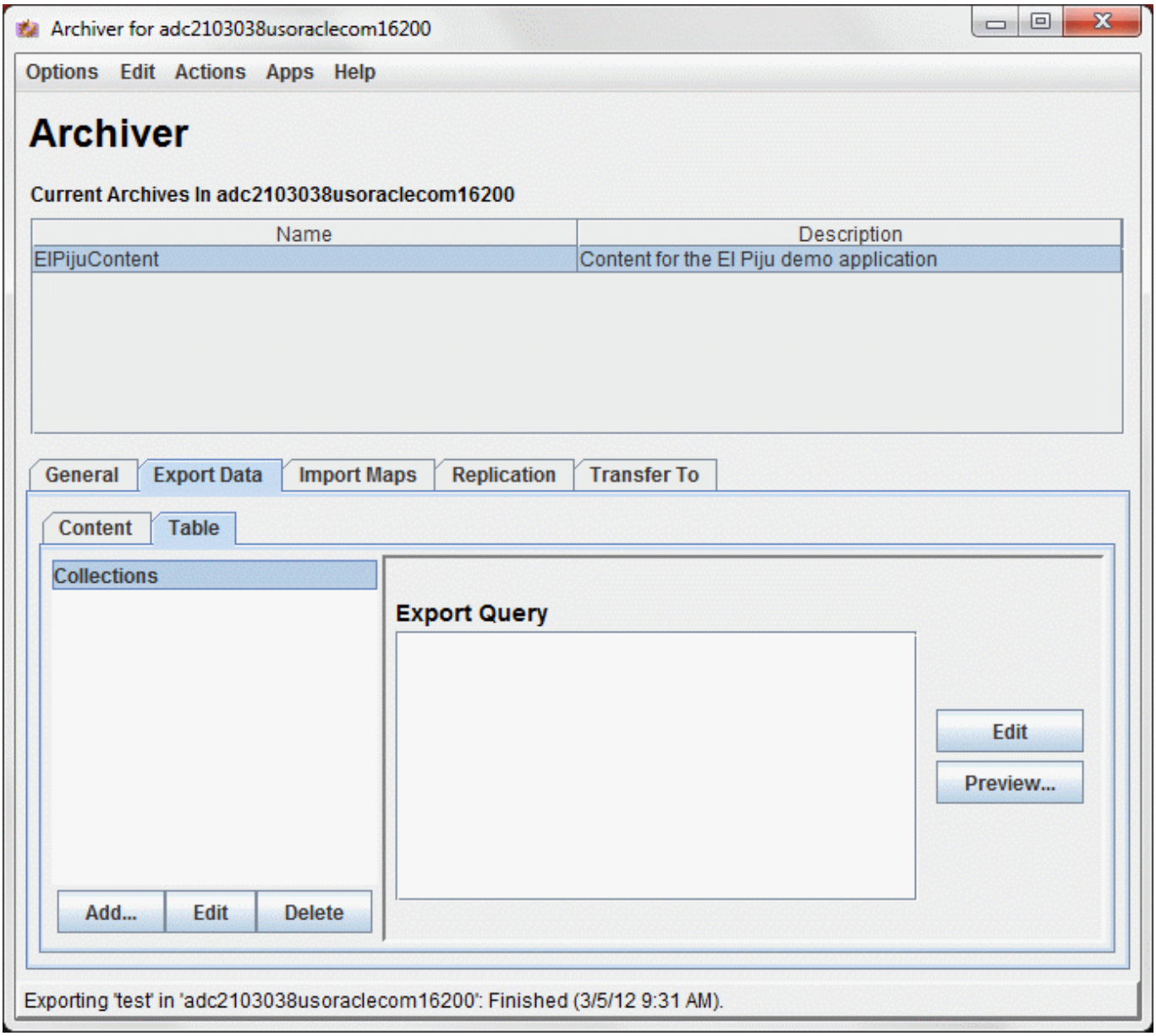
d. 新しく作成したアーカイブ定義を確認します。

Export Queryの定義が表示されます。Previewボタンを使用して、式で選択したドキュメントを表示できますが、この時点では使用できません。アプリケーションが使用しているフォルダに保存されているドキュメントだけでなく、フォルダに保存されているドキュメントがすべて一覧表示されるためです。



ar_06.gif

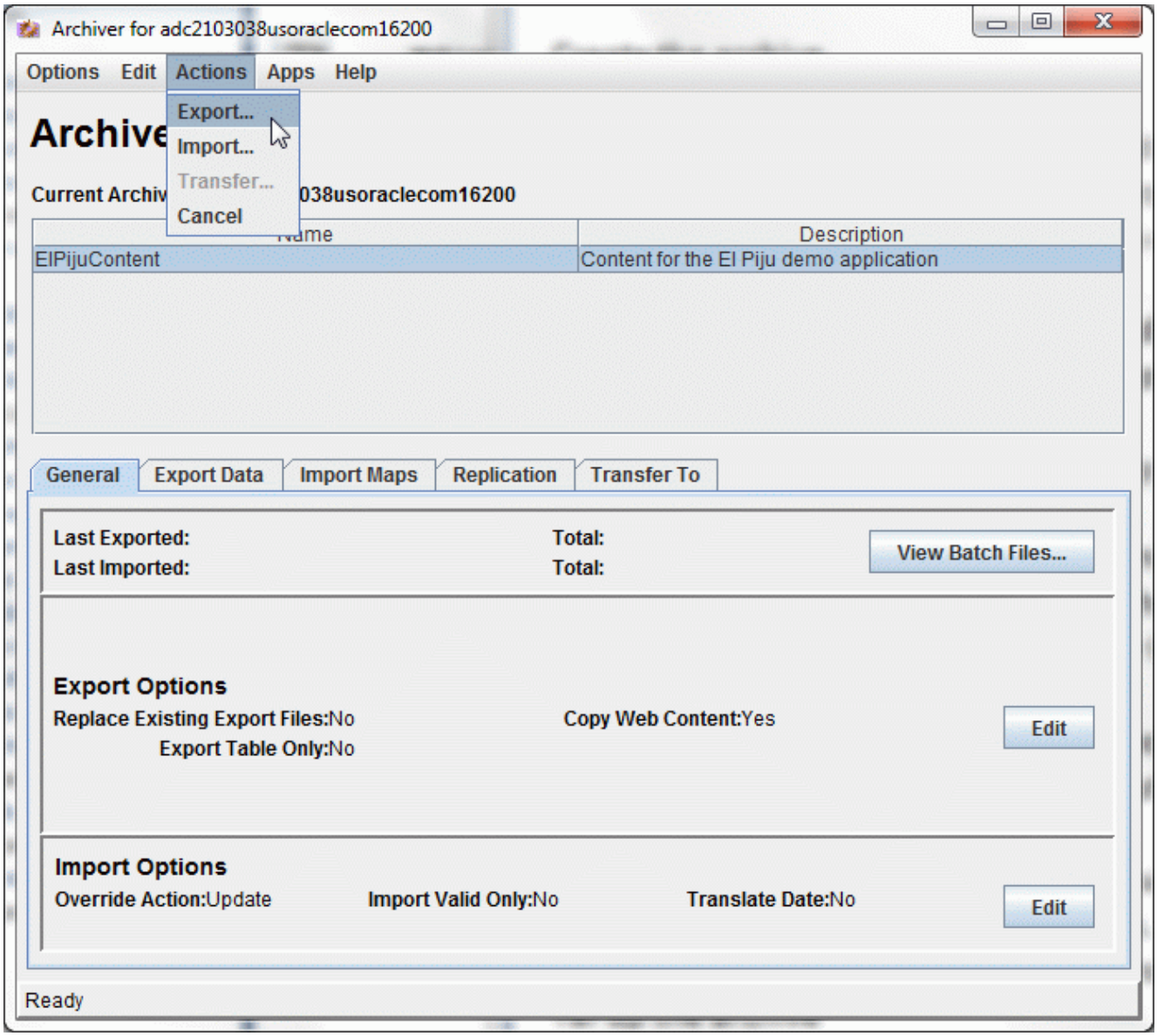
Tableタブも確認できます。Folder Structure ArchiverによってCollections表が追加されました。



ar_20.gif

4. アーカイブをエクスポートします。

   a. 新しく作成したアーカイブが選択されていることを確認し、Actionsメニューから「Export」を選択します。

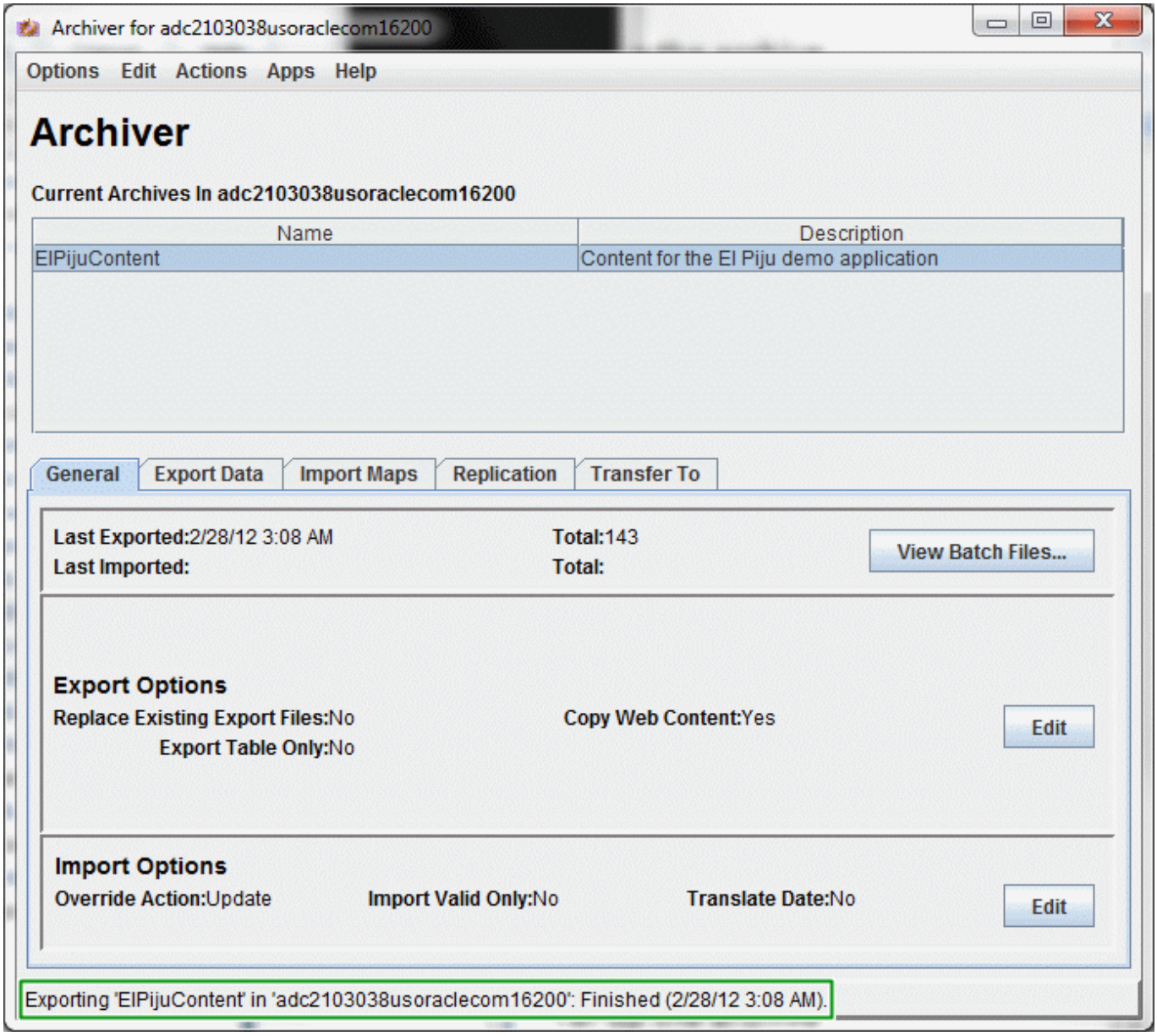


ar_10.gif

b. ポップアップ・オプション・ウィンドウで、Export Tablesチェック・ボックスが選択されていることを確認します。

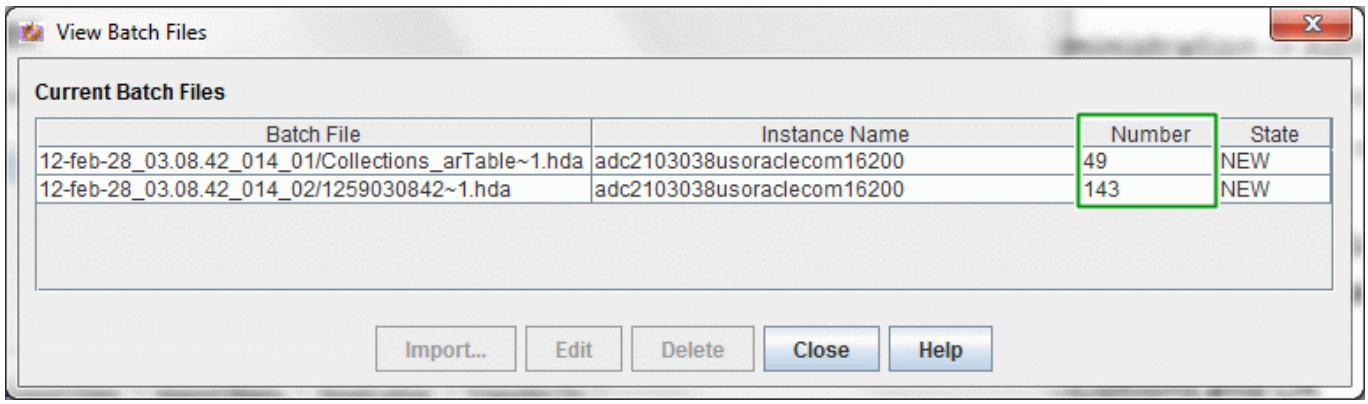
ar_11.gif

c. ウィンドウのステータス行で、エクスポートの進捗を確認できます。終了するまで待ちます。



ar_12.gif

d. エクスポートを確認します。「View Batch Files」ボタンをクリックします。エクスポート中に作成された2つのバッチ・ファイルが表示されます。最初のバッチ・ファイルは（この場合は49個の）フォルダをエクスポートし、2番目のバッチ・ファイルは（この例では143個の）ドキュメントのエクスポートに使用されました。

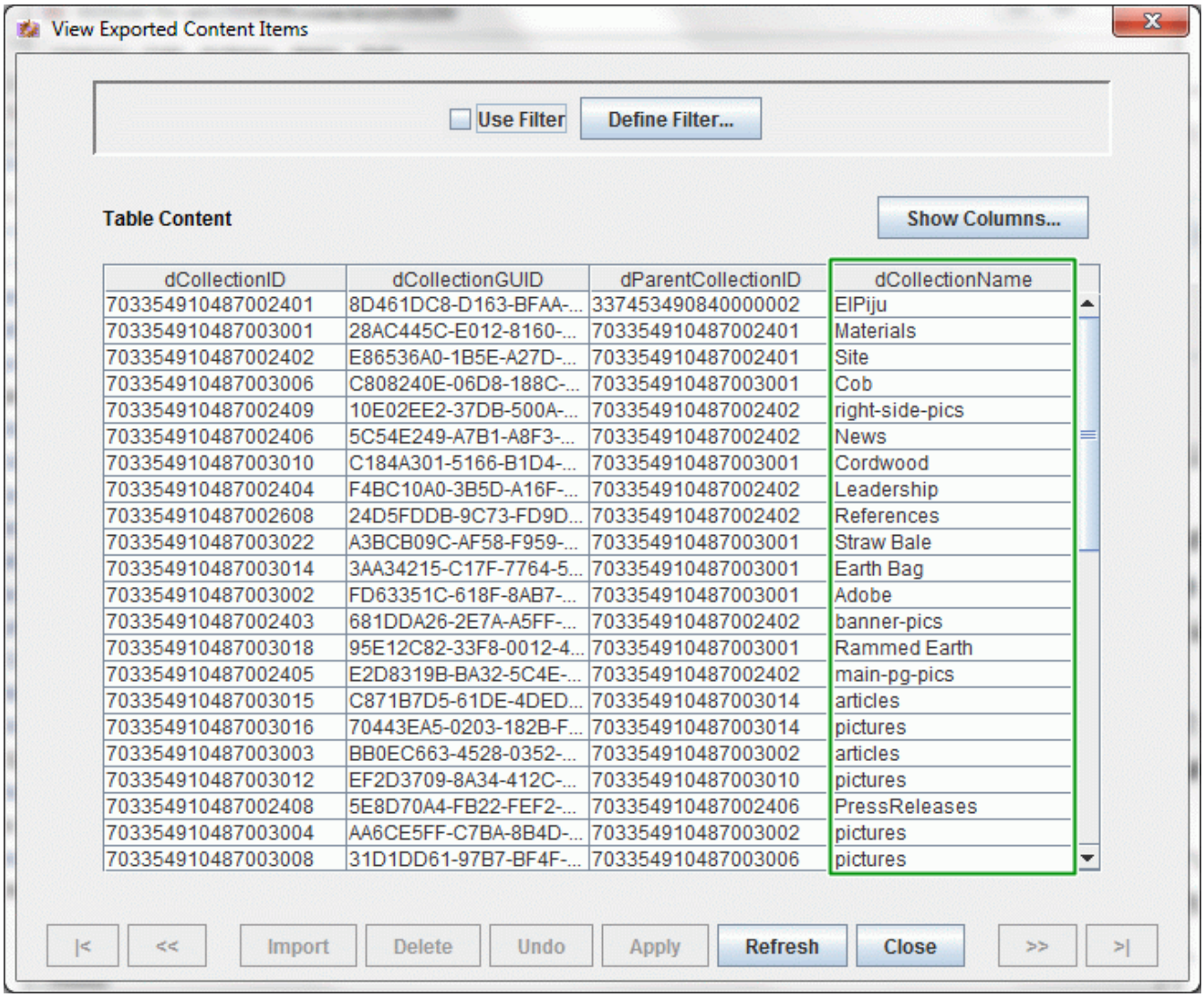


Batch File	Instance Name	Number	State
12-feb-28_03.08.42_014_01/Collections_arTable~1.hda	adc2103038usoraclecom16200	49	NEW
12-feb-28_03.08.42_014_02/1259030842~1.hda	adc2103038usoraclecom16200	143	NEW

ar_13.gif

e. どのフォルダやドキュメントをエクスポートしたのか、詳細を確認できます。バッチ・ファイルの1つを選択し、「Edit」をクリックします。エクスポートされたすべての項目が、ポップアップ・ウィンドウに表示されます。

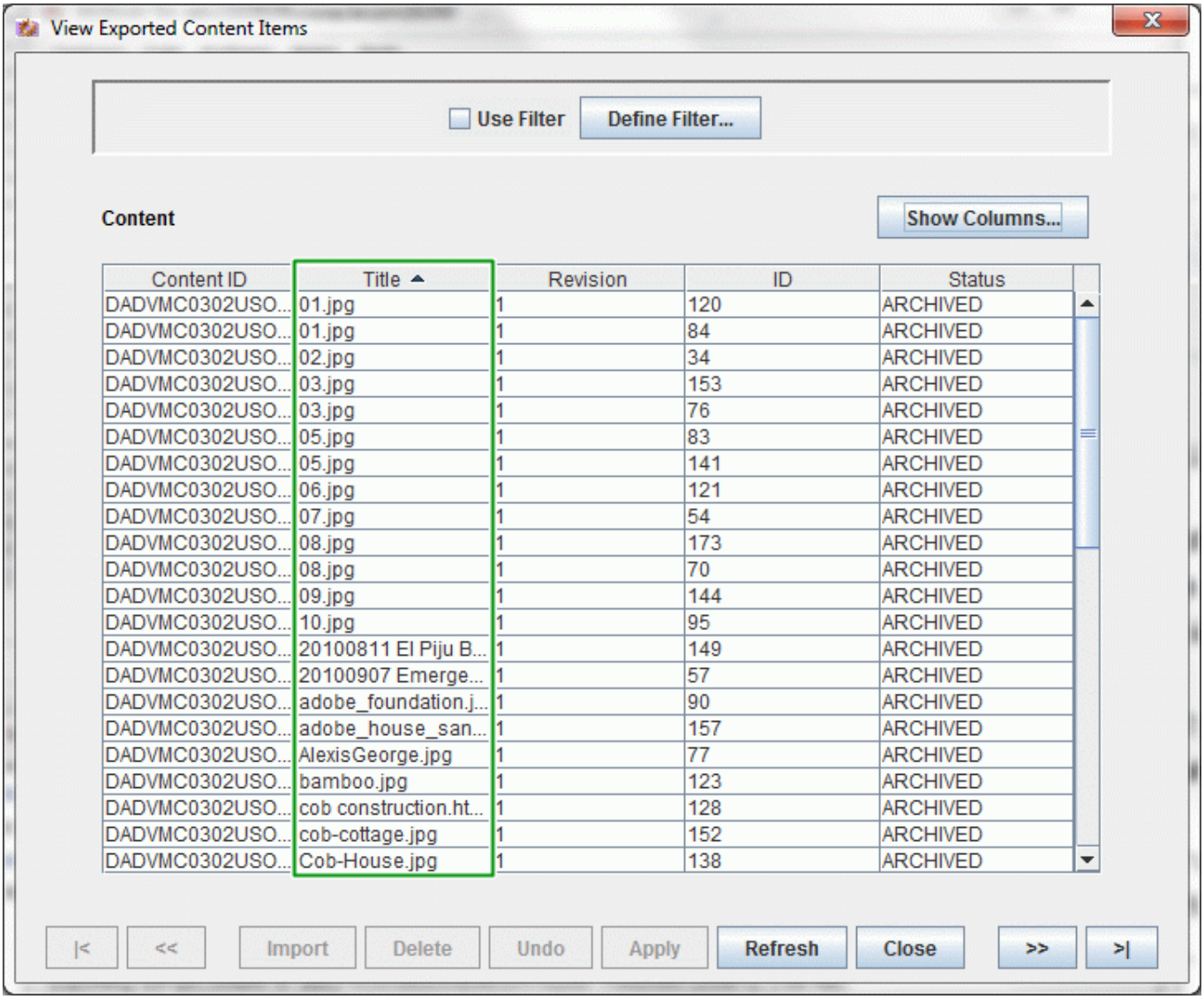
最初のウィンドウにフォルダが表示されます。表にフォルダ名（`dCollectionName`）が表示されない場合は、「Show Columns」ボタンをクリックして、このフォルダか他の属性を表に追加します。



dCollectionID	dCollectionGUID	dParentCollectionID	dCollectionName
703354910487002401	8D461DC8-D163-BFAA-...	337453490840000002	ElPiju
703354910487003001	28AC445C-E012-8160-...	703354910487002401	Materials
703354910487002402	E86536A0-1B5E-A27D-...	703354910487002401	Site
703354910487003006	C808240E-06D8-188C-...	703354910487003001	Cob
703354910487002409	10E02EE2-37DB-500A-...	703354910487002402	right-side-pics
703354910487002406	5C54E249-A7B1-A8F3-...	703354910487002402	News
703354910487003010	C184A301-5166-B1D4-...	703354910487003001	Cordwood
703354910487002404	F4BC10A0-3B5D-A16F-...	703354910487002402	Leadership
703354910487002608	24D5FDDB-9C73-FD9D...	703354910487002402	References
703354910487003022	A3BCB09C-AF58-F959-...	703354910487003001	Straw Bale
703354910487003014	3AA34215-C17F-7764-5...	703354910487003001	Earth Bag
703354910487003002	FD63351C-618F-8AB7-...	703354910487003001	Adobe
703354910487002403	681DDA26-2E7A-A5FF-...	703354910487002402	banner-pics
703354910487003018	95E12C82-33F8-0012-4...	703354910487003001	Rammed Earth
703354910487002405	E2D8319B-BA32-5C4E-...	703354910487002402	main-pg-pics
703354910487003015	C871B7D5-61DE-4DED...	703354910487003014	articles
703354910487003016	70443EA5-0203-182B-F...	703354910487003014	pictures
703354910487003003	BB0EC663-4528-0352-...	703354910487003002	articles
703354910487003012	EF2D3709-8A34-412C-...	703354910487003010	pictures
703354910487002408	5E8D70A4-FB22-FEF2-...	703354910487002406	PressReleases
703354910487003004	AA6CE5FF-C7BA-8B4D-...	703354910487003002	pictures
703354910487003008	31D1DD61-97B7-BF4F-...	703354910487003006	pictures

ar_14.gif

2番目のウィンドウにエクスポートしたファイルが表示されます。必要な列を表に追加します。いずれかの列ヘッダーをクリックして、リストを並べ替えることもできます。



ar_15.gif

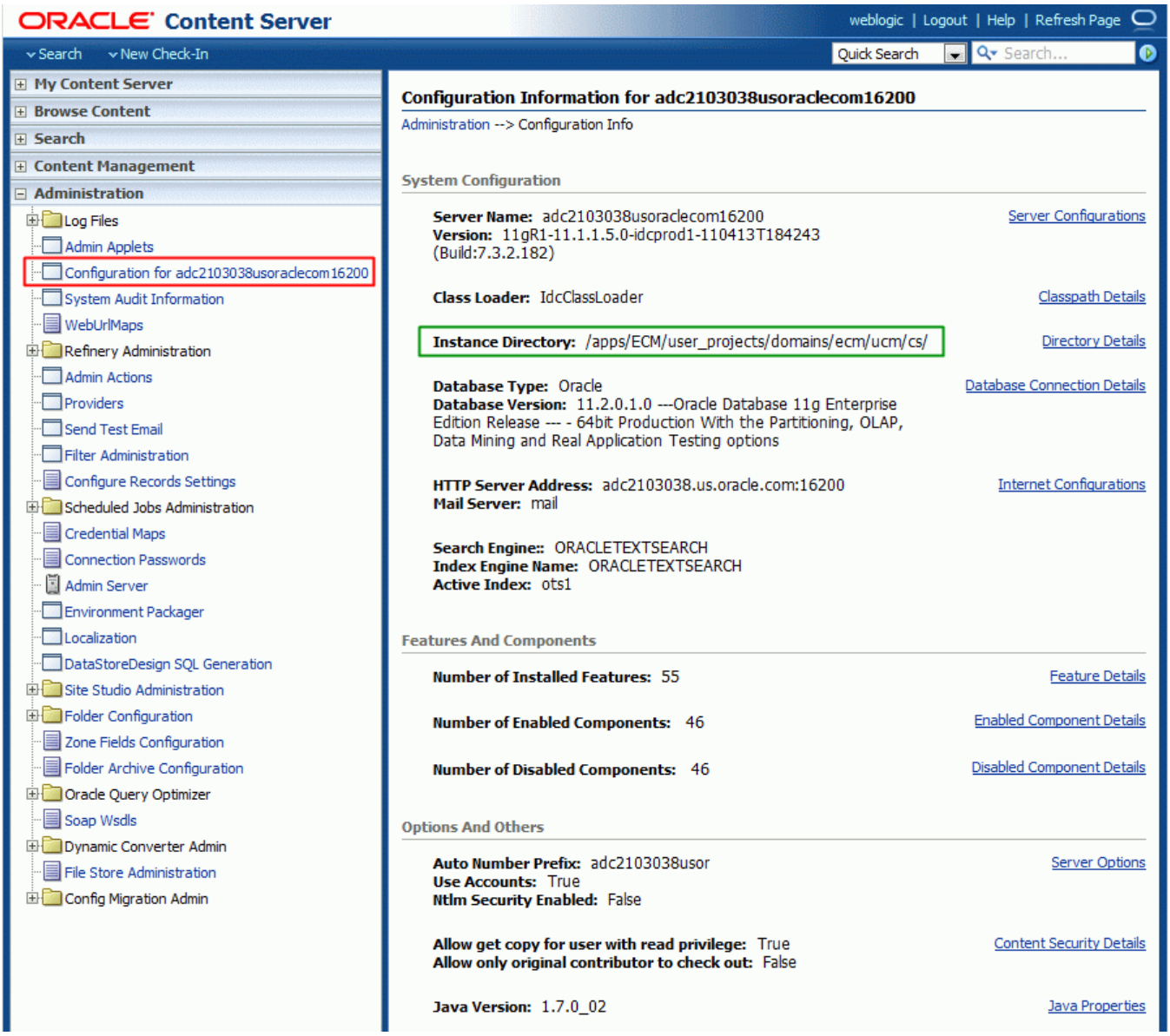
注：必要に応じて、これらのバッチ・ファイルを編集できます。たとえば、アーカイブから要素を削除できます。リストが大きい場合は、フィルタを定義してリストの一部だけを表示できます。

5. アーカイブを圧縮して保存します。

   Archiverによって、アーカイブされたコンテンツと属性を含む一連のディレクトリとファイルが作成されました。この手順では、これらを1つのファイルに圧縮します。

   a. インスタンス・ディレクトリを検索します。

      管理コンソールで、Configuration for <インスタンス名>ページを開きます。Instance Directoryをメモします。



ar_16.gif

b. サーバーにログインし、次のアーカイバのルート・ディレクトリに移動します。

```
cd <INSTANCE DIRECTORY>/archives
```

ここに、新規エクスポートのルート・フォルダが、アーカイブに指定した名前をすべて小文字で表示されます。

```
ls -l
total 16
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  337 Mar      1 11:09 collection.hda
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  1 Mar  1 11:09 collection.mrk
drwxr----- 4 somebdy somegrp 4096 Feb 28 03:08 elpijucontent
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  16 Feb 13 11:59 lockwait.dat
```

アーカイブ・ディレクトリを一覧表示できます。

```
ls -l elpijucontent
total 20
```

```
drwxr----- 2 somebdy somegrp 4096 Feb 28 03:08 12-feb-
28_03.08.42_014_01
drwxr----- 3 somebdy somegrp 4096 Feb 28 03:08 12-feb-
28_03.08.42_014_02
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  913 Feb 28 03:08 archive.hda
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  438 Feb 28 03:08 exports.hda
-rw-r----- 1 somebdy somegrp  16 Feb 28 02:49 lockwait.dat
```

c. このelpijucontentというディレクトリを、1つのファイルに圧縮します。圧縮したtarファイルかzipファイルを使用できます。たとえば、次のようになります。

```
tar -cvzf ec.taz elpijucontent
```

または

```
zip -r ec.zip elpijucontent
```

d. このファイル（ec.tazまたはec.zip）を保存します。次の手順では、これをターゲット・システムにコピーするか、FTPで送信します。

コンテンツのインポート

別のマシンで実行されている他のWebCenter Content Serverインスタンスに、アーカイブをインポートするとします。

6. 同じ名前で新規アーカイブを作成します。

   a. ターゲットのWebCenter Content ServerのWebユーザー・インタフェースにログインし、Archiverアプレットを起動して、エクスポートしたアーカイブと同じ名前で新規アーカイブを作成します。手順1を参照してください。

      これにより、Content Serverの管理用の新規アーカイブが登録されます。このアーカイブのフォルダやエクスポート問合せは定義しません。次の手順では、前に保存したアーカイブを使用して、アーカイブのコンテンツをオーバーライドするだけです。

   b. 手順5/aと同様に、Web管理コンソールにインスタンス・ディレクトリを入力します。

   c. サーバーにログインし、手順5/bと同様にアーカイバのルート・ディレクトリに移動します。

   d. アーカイブ用に作成したディレクトリを削除します。

```
rm –rf elpijucontent
```

   e. 保存したアーカイブをこのディレクトリにコピー、またはFTPで送信して解凍します。たとえば、次のようになります。

```
tar -cvzf ec.taz elpijucontent
```

   または

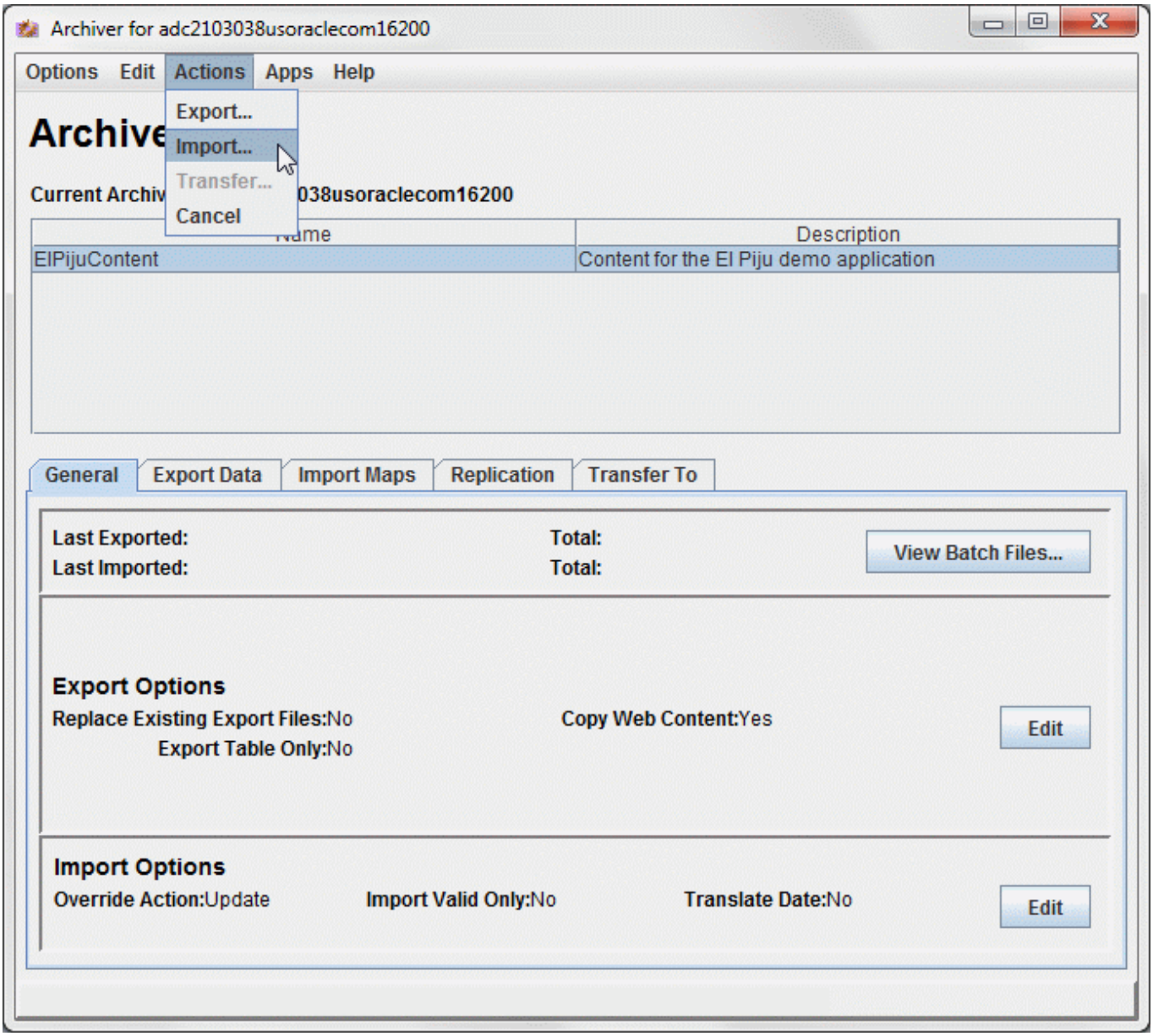
```
unzip -x ec.zip
```

   これにより、elpijucontentディレクトリとその元のコンテンツが再作成されます。

7. アーカイブをインポートします。

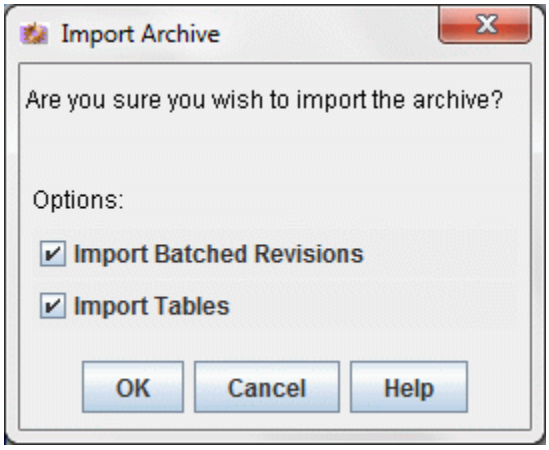
   a. Archiverアプレットを開き、Actionsメニューから「Import」を選択します。

注：インポート前に、いくつかの変更を適用できます。たとえばImport Optionsで、オーバーライドの処理方法や、ターゲット・システムのタイム・ゾーンに日付を変換するかどうかを定義できます。Import Mapsタブで、コンテンツ属性の複雑なマッピングの作成や、これらの属性の値の変更を行うこともできます。このチュートリアルでは、このようなインポート処理の構成が不要であることが前提です。



ar_17.gif

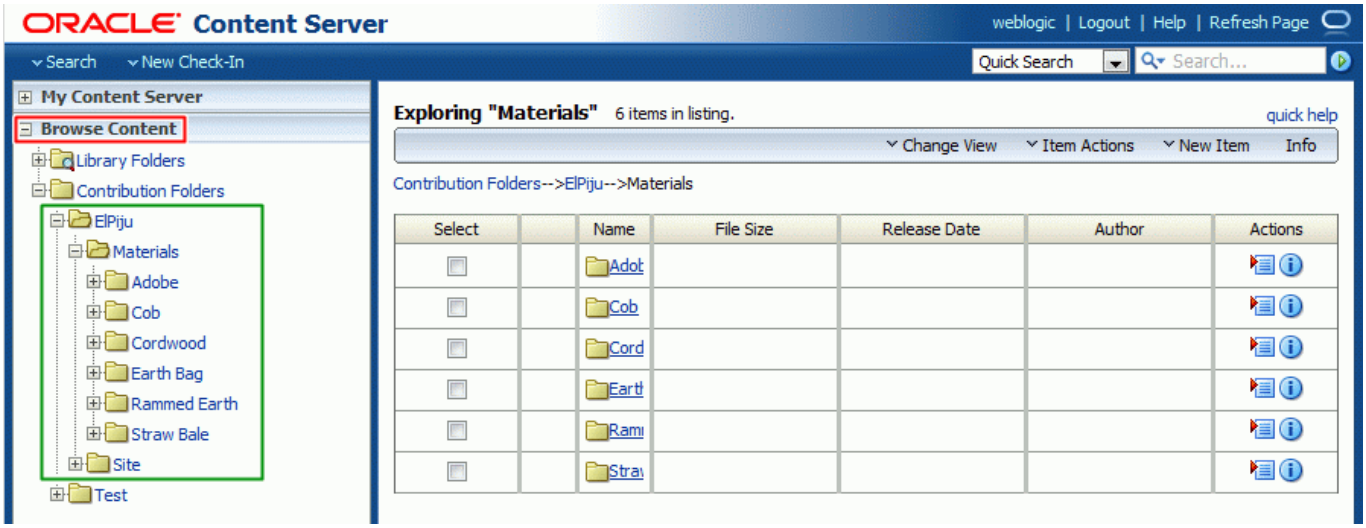
ポップアップ・ウィンドウで、Import Tables チェック・ボックスが選択されていることを確認します。「OK」をクリックし、アプレットのステータス行に終了メッセージが表示されるまで待ちます。



ar_18.gif

8. インポートしたコンテンツを確認します。

   a. Webインタフェースを使用してBrowse Contentノードを開き、アプリケーションのフォルダまでドリルダウンします。



ar_19.gif